

公益財団法人国際文化フォーラム

2017(平成 29)年度 事業報告及び附属明細書



設立 30 周年を迎えた 2017 年度は、30 周年記念事業ならびに定期事業を概ね当初の計画どおりに順調に実施することができました。

◆学校のソトでうでだめし「ことばの世界をで服を表現してみたらーことぶく」

ア-3

「学校のソトでうでだめし」では、高校生が、違う学校の生徒やいつも出会わない大人たちといっしょに、普段と異なる場所で、創作活動に取り組むことを通して、自分の価値観や考え方がどういうものか気づいたり、ほかの人たちから刺激を受けて思考や表現の幅を広げていくきっかけになることをめざしています。

2017 年度は、舞台衣装家の川口知美さんや探究学習のサポートをしている高校の先生とチームを組み、「詩の世界に立つ自分が着る服をつくり、完成した服を着て詩を朗読する」プログラムとしました。2 日間ずつ 2 回、4 日間の日程で実施し、高校生 5 人、大人 5 人の計 10 名が参加しました。

初日は、丸山薫の「未来へ」や田村隆一の「帰途」など、教科書に掲載されている詩 5 編を提示して、そのなかから参加者が気になる作品を選び、表現だけでなく、その詩の世界の時間や温度、湿度、色などの感覚、感情の移り変わりなどを味わいます。その後、自分がもっとも揺さぶられたフレーズを手がかりに、詩の世界の解釈に自身の記憶や経験、日々考えていることがどのように影響しているか考え、この詩の世界に自分がいるとしたらどこにいる何者かを想像していきます。そして、2 日めから、詩の世界に立つ自分に着せたい服を、白い T シャツ 5 枚を切ったりつなぎ合わせたり、染めたりしながら制作します。

最終日は、昭和の木造賃貸アパートを改装したスペースで、完成した服を着て思い思いの動きをつけながら詩を朗読しました。4 日間を通して、異なる年齢の人たちがいっしょに取り組むことで、詩の解釈や服作りでお互いに刺激を受ける場面がみられました。

高校生の一人は、「自分の選んだ詩と服のイメージについて、自分がねらったところに気づいてもらえたのも、まったく考えていなかった印象を語ってくれたのも、どちらも嬉しかった」、参加した高校教員は、「今回の題材は、教科横断的でも、探究的でもあり、また、学校の授業ではなかなかできないことでもある。だからこそ学校外でやってもらう意味がある」と感想を述べていました。今後も、音楽や演劇、アートからテーマを選び、プログラムを実施していく予定です。

◆多言語・多文化交流＜パフォーマンス合宿＞

ウ-4

TJF は、これまで「日本と海外」で互いのことばを学ぶ中高校生を対象に、交流プログラムを実施してきました。一方、さまざまな背景を持って、日本と海外のいくつもの地域を移動しながら生活する子どもたちも多数います。

30 周年記念事業として、これらの子どもたちに焦点を定め、多言語・多文化交流＜パフォーマンス合宿＞を行いました。日本で暮らしている、ルーツやルート、価値観がさまざまな高校生が自己表現と創作活動を通じて交流を深め、多様性を認め合うとはどんなことなのか、自ら気づきを得ることをめざしました。八王子の大学セミナーハウスを会場に行った 4 日間の合宿には、海外にルーツをもつ高校生、海外に長く在住した経験をもつ高校生、これまでずっと日本で暮らしてきた高校生、計 30 名が参加しました。全体のプログラムづくりは多言語演劇の経験豊かな演出家・田室寿見子氏をコーディネーターにした演劇的手法の経験豊かなファシリテーターのチームにお願いしました。

プログラムはファシリテーターのナビゲートで進められ、初日はコミュニケーションゲームで参加者間の心理的距離を縮め、2 日め以降は、最終日の発表に向けて、ダンスや身体活動を含むさまざまな活動を個人やグループで行いました。それぞれのこれまでを表現するパフォーマンスとしては、自分たちで描いた世界地図上で暮らしたことのある地域に立ったり、グループでメンバーそれぞれの一番古い記憶を身体表現で一枚の絵に仕立てる作業を行いました。3 日間の活動をつなぎあわせて、最終日に、過去・現在・未来をテーマにしたパフォーマンス作品を作り、発表を行いました。

参加者からの感想には、「個性豊かな人ばかりだった、学校では本当の自分を隠してきたがここでは自分を出していいんだという安心感を覚えた」「ことばと文化の違いを気にすることなく交流ができた」「多様な仲間ができたことがいちばんうれしい」とありました。プログラム内容と成果を検証し、改善と充実を図って新たな参加者を迎え、2018 年度の実施につなげます。

◆30 周年記念誌の制作

エ-1

財団設立 30 周年を機に、直近 10 年間の活動を記した「ことばと文化 30TH」を制作しました。3 分冊に編成した B5 判冊子と新たに作成した B5判8P 観音開きのパンフレットをセットにし、テーマデザインを象ったブックバンドでまとめるかたちをとりました。

1 冊めの『Tracks』では、2007～2016 年度に実施した事業を振り返り、その事業が始まるに至った経緯や、事業の変遷が判るように、編集することをめざしました。

2 冊めの『Jobs』は『Tracks』で取り上げた事業の記録として、日時、場所、関係機関、協力者、内容など詳細なデータを掲載しました。3 冊め『Flow』では、野間省伸評議員会長と渡邊幸治理事長の対談「変わること、変わらないこと、見極める力」を巻頭におさめ、これからの国際交流プログラムについて特集しました。

3000 部制作した記念誌は、「30 周年記念感謝の会」にお招きした方々にお配りした上で、支援者、事業協力者、国内外の外国語教育、日本語教育、国際理解教育、文化交流などに関わるみなさまにお届けしました。

◆「30 周年記念感謝の会」の開催

エ-3

2018 年 2 月 26 日(月)にグランドヒル市ヶ谷において、感謝の会を開催しました。財政面で財団を支えてくださった方、事業と一緒に作ってきた方、TJF のプログラムに参加してくださった方など、200 名近くの方にご参加いただきました。

今回の感謝の会のコンセプトは「であい、つながる場」をつくることとしました。直近 10 年の事業をまとめたビデオを放映し、事業紹介のパネルを飾るなど、お客様に改めて日ごろの活動を紹介いたしました。参加者間の語らいに重点を置いた 2 時間は、スタッフも積極的にその輪に加わり、新しい出会いが生まれたり、久しぶりに出会った関係者が旧交を温める貴重な時間になったと確信しております。

2017 事業一覧及び各事業の報告

- ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業
 - 1. 「外国語学習のめやす」活用の促進をめざしたワークショップの開催（定期事業）
 - 2. 社会変化に対応し学びをデザインする教師研修の実施（定期事業）
 - 3. 生徒を対象とした研修、ワークショップ、セミナーなどの実施（定期事業）
 - 4. 隣語講座の実施（定期事業）
 - 5. ネットワークの構築と情報収集（定期事業）

- イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業
 - 1. 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営（定期事業）
 - 2. 「外国語学習のめやす」活用の促進をめざしたウェブサイトの運営（定期事業）
 - 3. 中国への図書・教材・資料の提供（定期事業）
 - 4. ネットワークの構築と情報収集（定期事業）

- ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業
 - 1. 日韓・中高生の交流プログラムの実施（定期事業）
 - 2. 日韓の校長交流プログラムの実施（定期事業）
 - 3. 日露教師・生徒交流プログラムの実施（定期事業）
 - 4. 多言語・多文化交流＜パフォーマンズ合宿＞の実施（定期事業）
 - 5. ネットワークの構築と情報収集（定期事業）

- エ. 広報事業
 - 1. TJF の事業の広報（定期事業）
 - 2. 30 周年記念誌の制作
 - 3. 30 周年記念レセプションの実施

事業名	実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
公1 国内外の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業 136,269,349円(内、公益目的事業共通費用 72,566,166円 ※)				
ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業				12,196,722円
1	「外国語学習のめやす」活用の促進をめざしたワークショップの開催 予算額:1,800,000円 実績額:1,909,212円 予算残額:△109,212円 費用増加理由:海外で開催するワークショップが増加したため	①通年 ②2018/2月 ③7月	①大阪、台湾、東京・ソウル ②ペルー、アルゼンチン、ブラジル ③神奈川 ①めやすマスターティーチャー企画の研修 2017年度は「外国語学習のめやす」マスター研修修了者(「めやす」マスター)との共同企画、または「めやす」マスターの自主企画に協力する形で、以下のワークショップ等を国内外で実施しました。 (1)8/22～23「外国語学習のめやす」合宿(大阪/17名) (2)8/30「外国語学習のめやす」ワークショップ(台湾・新北/30名) (3)「外国語学習のめやす」セミナー 日韓合同「交流学习」研修(東京、ソウル/東京19名、ソウル13名) ②「めやす」マスターの海外派遣 日本語の「めやす」マスターをペルー、アルゼンチン、ブラジルで現地の教師会や教育機関が実施するセミナーの講師として派遣した。 ③「めやす」マスターのための強化研修 「めやす」監修者の當作靖彦氏を講師に招いて、「めやす」を授業活動に取り入れるための語彙・文法表現の教え方「5+5」をテーマとした研修を実施し、マスター27名が参加した。	①-(1) 共催、協力:「めやす」マスターティーチャー ①-(2) 主催淡江大学、共催:台湾日本語教育学会、TJF ①-(3) 共催:(独)国際交流基金ソウル日本文化センター(韓国会場)
2	社会変化に対応し学びをデザインする教師研修の実施 予算額:5,402,400円 実績額:2,769,044円 予算残額:2,633,356円 費用減少理由:米国からの講師招聘が4回から2回に、リーダー教員研修が3回から2回の実施になったため	①7月、9月 ②3月 ③8月、2月 ④11月	①大阪、沖縄 ②東京、オンライン ③北海道 ④東京 ① 評価についての講義・ワークショップ(小中高校の教員向け) 當作靖彦カリフォルニア大学サンディエゴ校教授に講師を依頼し、沖縄県教育委員会との共催で6年連続となる研修を実施した。すべての県立学校から1名以上の外国語教員が参加する形式を続けてきたため、学校の異動があっても県内の教員間で知識とスキルが共有される仕組みがととのってきた。また、豊中市教育委員会の要請により、市内の小中学校の教員を対象に2年目となる研修の実施にも協力した。いずれも、来年度の継続実施が決まっている。 ② プロジェクト学習や探究学習のワークショップ(小中高校の教員向け) 稲垣忠・東北学院大学教授(教育工学)による実践経験者向けのワークショップを実施した。プロジェクト学習や探究学習で自分の生徒が実際に作成した作品をもとに、そこでおこっている学びの質を吟味して評価基準(ルーブリック)を作成。完成したルーブリックをもとに、単元の学習活動を再考し、次年度に使える活動案づくりにつなげた。また、インターネットを使った同時中継を実験的に試み、北海道、鹿児島のほか、フランス在住の教師が視聴した。また、ワークショップ参加者が自分の学校での全職員向けの研修を稲垣教授にシリーズで依頼するなど、学校現場への広がりも見られた。	①共催、協力:沖縄県教育委員会、豊中市教育委員会

				③ 北海道のリーダー的外国語教員向けの研修 北海道でリーダー的役割を担っている英語教員を対象に、小規模でより専門性の高い講義、ワークショップを実施した。 當作教授の研修では、アメリカの外国語教育のガイドラインとなるナショナルスタンダードの実現において、教育目標と学習目標づくり、カリキュラム作成、全国規模のテスト作成がどのように行われていったか詳細に紹介された。その後、参加者間で、北海道の英語教育の理念や課題、課題の解決の方策についてディスカッションし、それぞれが1年間学校や地域でどのような実践を行うか検討した。2018年夏に、その成果と課題を共有するワークショップを実施する予定である。 また、細井洋実聖心インターナショナルスクール日本語教諭のワークショップでは、Teaching for Understandingのフレームワークを使い、理解の4つの側面(knowledge, methods, purposes, forms)を考慮しながら、理解するとはどういうことか考察を深めたほか、思考の可視化やフィードバックの与え方のフレームを使ったワークを行った。 ④ CMづくりワークショップ(小中高校の教員向け) 教員の発信力向上や日頃の教育実践のふりかえりを目的に、CM制作のステップをたどりながら、伝えたいことの本質を掘りさげて一行コピーに落とし込み、生徒にみせることを前提に、伝わる構成や表現を工夫して映像づくりを行った。	
3	生徒を対象とした、研修、ワークショップ、セミナーなどの実施 予算額:2,741,500円 実績額:1,131,450円 予算残額:1,610,050円 費用減少理由:生徒を対象としたCMづくりワークショップを実施しなかったため	9/9 (土)、 9/10 (日)、 9/30 (土)、 10/1(日)	東京	高校生が、異なる学校の高校生や大人たちと、表現や創作の場をともにしながら、探究的な学びを体験する「学校のソトでうでだめし」の第一弾として「ことばの世界を服で表現してみたら？」を4日間の日程で実施した。 舞台衣装家がナビゲーターをつとめ、高校生5名、大人5名が参加して、教科書で目にする詩のなかから選んだ作品をさまざまな角度から味わいなおし、自分がその世界にいるとしたらどんな服を着たいか考え、白いTシャツ5枚をつかって制作した。 最終日には、Tシャツを切ったり縫い合わせて形をつくり、さらに、パーツを加えたり、色を染めたりして完成させた服を着て、詩を朗読するパフォーマンスを行い、参加者どうしで感想や制作の意図などを述べあった。 学校で探究学習、プロジェクト学習、アクティブラーニングなどを経験してきた生徒たちが、学校の外に出て、学んできたことを実践したり、さらに磨きをかけたりするような、学校と社会の中間の場として機能することもめざしている。 今後も、音楽家や美術関係者、CMプランナーなどと組んでプログラムを開発、実施していく予定である。	

4	隣語講座の実施 予算額:1,902,100円 実績額:513,083円 予算残額:1,389,017円 費用減少理由:各講座のコーディネータを対象とした研修を実施しなかったため	通年	①東京、②東京、横浜、③静岡	①2010年から実施している「中高生のための韓国語講座」を駐日韓国文化院世宗学堂と共催したほか、拓殖大学第一高等学校韓国語講座にも継続して協力した。 ②東京都高等学校総合学科教育研究会との共催で、都内の総合学科に通う高校生、その保護者、教師と一緒に参加できる講演会「世界の言語と文化を知ろう」の第4回「落語×中国語＝グローバル時代の人へのものの伝えかた」を開催した。 ③高校生が関心を持つテーマを主軸とした隣語講座として、東京韓国教育院と共催でK-Popをテーマとした「KPOPろう」を、東京ドイツ文化センターと共催でサッカーをテーマにした「ドイツのテーブルゲームTIPP-KICKしよう」を開催した。 ④学校の協力を得て実施する隣語講座として、静岡県浜松市にある西遠女子学園で12月23日から25日の集中型の韓国語講座を開催した。	①の「中高生のための韓国語講座」共催:駐日韓国大使館韓国文化院 ②助成:漢語橋基金 ③共催:東京韓国教育院、東京ドイツ文化センター ④共催:静岡県西遠女子学園、神奈川韓国総合教育院 協力:(一社)グローバル人財サポート浜松
5	ネットワークの構築と情報収集 予算額:4,144,300円 実績額:2,477,744円 予算残額:1,666,556円 費用減少理由:学会や研究会への出張が予定より少なかったため	通年	各地	アの事業に関連する国内外の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努めた。 また、「30年目からのTJF」に向けて、スタッフが学ぶ機会として、2回の勉強会を開催した(第1回 講師:佐藤郡衛異文化間教育学会会長 テーマ「ことばの学習、交流の視点:ルーツからルートへ」 第2回 講師:稲垣忠東北学院大学教授 テーマ「教育の情報化:ICTは教育の何を変えるのか?」)	

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業					14,284,317円
1	日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにつぼん」の運営 予算額:8,402,286円 実績額:6,543,621円 予算残額:1,858,665円 費用減少理由:くりっくにつぼんの掲載記事の本数が予定より少なくなったため	通年	TJFウェブサイト	①くりっくにつぼん 「My Way Your Way」で「人間に迫る」と「妖怪に魅せられて」をテーマにした記事3本を掲載し、「アイドルは好きですか？」の企画・取材を進めた。 中国の大手SNS微博に開設した「点击日本」でくりっくにつぼんの記事などを配信、英語圏の日本語教師向けメルマガ「Click Nippon News」を月2回配信。韓国では中高校日本語教師ネットワークJTAと連携して「くりっくにつぼん」を活用した授業案の開発・実践を行うと同時に、JTAウェブサイト上の「くりっくにつぼん」コーナーにも授業案を掲載するなど、サイトの広報に努めた。4月に開催されたオーストラリアビクトリア州日本語教師研究会(JLTAV)大会では、くりっくにつぼんの紹介と活用例の発表を行った。 ②ときめき取材記 「くりっくにつぼん」の「My Way Your Way」コーナーで行っている企画・インタビュー・記事作成の一連の作業を授業の一環として取り組む「ときめき取材記」プロジェクトを昨年度に引き続き実施した。同プロジェクトへの参加を希望する4名の教師を対象に「外国語学習のめやす」が提示するフレームワークを援用するための勉強会を、めやすマスター・田中祐輔氏(東洋大学准教授)を講師に招き、2017年1月と3月に各1回実施し、9月2日にそれぞれの実践報告と振り返りを行うとともに、新たに参加を希望する2名を加えて情報交換を行った。最終的に国内外の大学や日本語学校計7校の教師6名がプロジェクトに参加し、授業の成果として完成した記事で、関係者から許可がとれた9本をTJFウェブサイト内の「ときめき取材記」に掲載した。	①サイト運営・広報 協力:韓国日本語教師ネットワーク(JTA)
2	「外国語学習のめやす」活用の促進をめざしたウェブサイトの運営 予算額:560,000円 実績額:16,848円 予算残額:543,152円 費用減少理由:・めやすweb特集コーナー新設を実施しなかったため	通年	TJFウェブサイト	めやす関連の研修や合宿参加者による実践報告や授業プラン8本に加え、「ときめき取材記」プロジェクト(イ-1項参照)に参加した教師の実践プラン4本、計12本を掲載した。	

3	中国への図書・教材・資料の提供 予算額:6,006,200円 実績額:7,090,971円 予算残額:△1,084,771円 費用増加理由:2016年度の助成金を充当した教材購入を年度当初の予算にいれていなかったため	通年	①黒龍江省ハルビン、遼寧省大連、上海、広東省中山、同・広州 ②広東省中山 ③中国各地	①好朋友日本文化体験の場への教材・資料の提供 『好朋友』を使った日本語の授業に長く取り組んでいる5つの学校(黒龍江省ハルビン市朝鮮族第一中学、大連市第31中学、上海市工商外国語学校、広東省中山市外国語学校、広東省華南師範大学附属第二中学・南沙小学校)内に設置されることが決まった、日本文化を体験したり理解を深めるための「好朋友日本文化体験の場」用に教材・教具を寄贈するとともに、各学校の地域に在住する日本人ネットワーク(企業、留学生会など)との協力体制を築くための働きかけを行った。 ②経験交流会 5つの学校で体験の場を担当する日本語教師を対象とした、それぞれの体験の場の活用方法の交流と日本人教師による教材・資料の活用方法の紹介を目的とした、経験交流会を前述の中山市外国語学校で開催した。 ③講談社より提供していただいた図書を、(公財)日本科学協会を通じて、日本語科があり日本語学習者数の多い27大学に計11,460冊寄贈した。	①、②助成:(公財)三菱UFJ国際財団
4	ネットワークの構築と情報収集 予算額:2,128,300円 実績額:632,877円 予算残額:1,495,423円 費用減少理由:学会や研究会への出張が予定より少なかったため			イの事業に関連する国内外の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努めた。	

ウ. 互いのことを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業					17,819,441円
1	日韓・中高校生の交流プログラムの実施 予算額:4,357,800円 実績額:3,941,937円 予算残額:415,863円 費用減少理由:ソウル往復の旅費交通費が予算より少なかったため	8月6-11日	韓国・ソウル市	日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国で日本語を学ぶ中高校生の交流プログラムの第6回を実施し、日韓ともに選考に通った全国の中高校生の各20名が参加した。韓国側は共同実施団体である韓国日本語教育研究会の役員会に出席し、プログラムの説明を実施したこと、遠方からの参加者に対し交通費補助を行ったことにより、過去最高の応募となった。 発表会では、昨年同様ダンス完成までのプロセスを写真5枚で紹介し、チームをアピールする「私たちの物語」と3日間練習したダンスを披露し、来場した約100名のゲストがその2つの総合評価を行い優勝チームを決めた。	企画・共催:(財)秀林文化財団 共同実施:秀林外語専門学校、韓国日本語教育研究会 後援:国際交流基金ソウル日本文化センター 協力:高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク 輸送協力:ANA 旅行取扱:ジェイエッチシー(株)
2	日韓の校長交流プログラムの実施 予算額:1,978,080円 実績額:1,935,153円 予算残額:42,927円	8月5-8日	韓国・ソウル市	①日本の校長の韓国派遣プログラム 東京と神奈川の韓国教育院と共催で日本の高校の管理職を韓国(ソウル)に派遣するプログラムの3回めを実施し、東京、神奈川、埼玉、千葉、広島から計11名の参加があった。ソウル滞在中は、日本語教育実施校を訪問し日本語学習者と交流、ソウルに留学中の日本人学生との交流、ソウルの今と昔を知る名所旧跡を訪問したほか、国際交流基金ソウル日本文化センターと共催の「日韓校長及び教師交流会」では、日本語を開校する学校9校から管理職と日本語教師計15名と互いの言語を学ぶ意義を再確認し今後の学校間交流の可能性を検討した。 ②韓国の校長と生徒の日本招聘プログラム 4月に(公財)日韓文化交流基金が公募した「JENESYS2017」韓国との間の招へい・派遣事業に一般社団法人国際フレンドシップ協会との共催で申請し、11月に韓国で日本語教育を実施している高校8校から校長8名生徒11名および引率2名を含めた計21名を招へいする事業を実施した。招聘対象は、①の事業で実施した日韓校長交流会に参加した学校とした。 ①、②を実施した結果、東京都立杉並総合高等学校と美林好情報科学高等学校、東京都立東久留米総合高等学校と登村高等学校、広島県立海田高等学校と桃林高等学校、3組が姉妹校交流協定を締結した。	共催:東京韓国教育院、神奈川韓国総合教育院、国際交流基金ソウル日本文化センター(一部共催) 輸送協力:ANA

3	日露教師・生徒交流プログラムの実施 予算額:11,361,130円 実績額:11,398,154円 予算残額:△37,024円	9月11-19日	青森市、八王子市ほか	中等日本語教育の拠点校であるモスクワの1校、サンクトペテルブルクの3校、ノボシビルスクの3校、ペルミの1校から、教師各1名、日本語学習者各2名のほか、団長1名の計25名を招聘した。 前半は、青森県を訪問し、ロシア語科目を開設している青森県立青森南高等学校のロシア語学習者と交流(授業参加、ホームステイ、合同フィールドワークを含む)をもらった。後半は2泊3日で教師は日露中高校教師合宿に、生徒は日露中高校生合宿に参加してもらい、全国から集まった高校ロシア語教師、高校ロシア語学習者とそれぞれ交流してもらった。 教師研修は、日本のロシア語教師、ロシアの日本語教師別々に行ったが、日露教師を相部屋にし、別途懇親会をもつなど交流する時間を確保した。 生徒向けプログラムは、演劇ワークショップを取り入れ、日露混成チームで「にじいろの魚」の場面をテーマに作品をつくることにチャレンジしてもらった。学んでいるロシア語または日本語を使って意思疎通を図ったり、互いのことばで通じ合わないときはジェスチャー、演技、絵、時には英語も活用して交流した。 効果としては、ロシア側は複数都市を訪問し、さまざまな人と交流したことで多面的な日本理解が進んだこと、また、日露の参加者ともに、教師同士・学習者同士の相互理解が深まったことが挙げられる。 ロシア側参加者は、往復国際航空運賃の一部を負担、日本側参加者には、交通費が一定金額を超えたものに対し補助を行った。	助成:(一社)尚友倶楽部、(公財)東芝国際交流財団、ルースキーミール財団 輸送協力:JAL
4	多言語・多文化交流くパフォーマンス合宿の実施 予算額:3,690,000円 実績額:3,396,189円 予算残額:293,811円 費用減少理由:夏の支援者会議にかかる交通費補助経費が予定より少なかったため	2018年3月26日-29日	東京	多様な文化や言語のルーツを持つ日本在住の高校生、多言語・多文化に興味を持つ日本人高校生、計30名が参加する多言語・多文化交流くパフォーマンス合宿くを八王子にある大学セミナーハウスを会場に3泊4日の日程で行った。 参加者は多様な文化や言語のルーツを持つ高校生に関わっている機関や学校からの推薦とし、その関係者に集ってもらう会合を8月に開催し、同時に「にじいろのさかな」シリーズの作者であるマーカス・フィスター氏を招き、多様性をテーマとしたワークショップを実施した。 3泊4日の合宿のプログラムは、多言語演劇に関わっている演出家田室寿見子氏にコーディネーターをお願いし、演劇的手法を取り入れたワークショップを企画してもらった。コミュニケーションゲーム、ダンス、身体活動を含む演劇ワークショップを取り入れ、参加者間の心理的距離を縮めながら、グループによる自主的、協働的作業を通じて、パフォーマンス作品を作り、最終日に保護者や教師を前にして発表を行った。	
5	ネットワークの構築と情報収集 予算額:1,865,000円 実績額:544,197円 予算残額:1,320,803円 費用減少理由:海外出張を実施しなかったため			ウの事業に関連する国内の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努めた。	

エ. 広報事業					19,402,703円
1	TJFの事業の広報 予算額:7,135,707円 実績額:6,227,303円 予算残額:908,404円 費用減少理由:ウェブサイトのリニューアルが方向性の検討にとどまったため	①8月初 A4判変 型、32 ページ、 5,700部 ②通年 ③7月	TJFサイ ト、メー ルマガジ ン、東 京ほか	①事業報告書の作成 8月初に発行した『CoReCa2016-2017』では、2016年度に実施した各事業の報告と、【「探求」って何だろう?】と題した特集を組み、探求をテーマとしたTJF主催の研修の講師でもある稲垣忠・東北学院大学教育学部教授の原稿と稲垣教授に聞き手をお願いし、庭井史絵・慶応義塾普通部司書教諭、川口知美・舞台衣装家へのインタビューをまとめた原稿を掲載した。 ②デジタル媒体を使った広報 メールマガジン(月2回発行)やウェブサイト、Facebookを通じてTJFの事業を広く発信した。メールマガジン「わやわや」では、2017年度に、事業で関わった人たちにとって思い出に残る味(My Gochi)とそれにまつわるエピソードを紹介する「Oh My Gochi」の配信を開始した。 ③りんごをかじろうの開催 立教大学石井正子教授と、カフェイン移住者センターの長瀬アガリン氏を講師に招き、「まとめて知ろうー フィリピン南部のマロン文化と社会の魅力」を開催した。	
2	30周年記念誌の制作 予算額:5,025,000円 実績額:9,894,004円 予算残額:△4,869,004円 費用増加理由:予定のページ数より増やし3分冊とし部数も2000冊から3000冊に増やすとともに、パンフレットも同時に制作したため	2018年2月	記念誌:3000部、パンフレット4000部	設立30周年を迎えたことを記念して「ことばと文化30TH」(3冊セット)を制作した。1冊めでは直近10年の事業を振り返り、2冊めではそれぞれの事業の詳細なデータを掲載、3冊めは、野間評議員会長と渡邊理事長の対談と、異なる分野で日々創造的に仕事に取り組んでいる3人の方の国際交流プログラムの企画を特集として収録した。パンフレットも同時に制作し、記念誌とセット組にして配付した。	
3	30周年記念レセプションの実施 予算額:3,457,400円 実績額:3,281,396円 予算残額:176,004円 費用減少理由:遠隔地からのゲスト招聘が1人だったため	2018年2月26日	東京	2018年2月26日(月)に、グランドヒル市谷で「国際文化フォーラム設立30周年 感謝の会」を開催し、TJFの事業に協力してくださった機関、団体、個人の方々200名近くが参加した。	

※公益目的事業に係る費用(給料手当、福利厚生費、消耗品費、賃借料など)